



## 「スマホ世代の子育て支援」

相模女子大学学芸学部 子ども教育学科七海 陽（ななみ よう）准教授



子育てに関する情報や子どもとのコミュニケーションにスマートフォンは欠かせなくなっている。その一方で、子育ての時間をスマートフォンに頼りきってしまう弊害も出ている。

未就学児の生活習慣とインターネット利用に関する保護者意識調査では、未就学児が最もよく使う情報通信機器はスマートフォンが34.8%、タブレットが12.7%であった。また、これらの機器を利用し始めた年齢は、0歳が9.6%、1歳が23.6%、2歳が26.2%、3歳が23.3%であり、ほぼ6割が2歳までに、8割以上が3歳までに利用を開始していた。また、3～6歳になると、ゲームの利用やネット接続での動画閲覧が増えている。使わせる場面としては「子どもが使いたがる時」「親が家事などで手を離せない時」「自家用車で移動している時」などが多く、保護者がやむをえず使わせている様子もうかがえた。

同調査からは、保護者のスマートフォン使用率は9割超であること、育児情報検索やママ友連絡などで不可欠な道具である一方、子どもに使わせることについては保護者の9割以上が「目が悪くなることや、視力発達への悪影響」、「勝手に課金や購入をしてしまうこと」、「不適切な情報や画像に触れること」等に不安を抱えており、これらはフィルタリング機能である程度防ぐことができるが、**実際に渡す時にフィルタリングをかける保護者は8%程度であったことや、平日は遅寝・早起き、休日は遅寝・早起きの傾向がある**など課題も明らかになった。

保護者や子どもに関わる大人ができることとして、保護者が自身のICT（PCやスマートフォンなど）・メディア利用を顧みて、適切な使い方をする（保護者のネット使用時間が長いと子どもの使用も長くなり、起床時間が遅延する）、昼間は屋外環境光を十分に浴び、夕方以降から屋内照明を暗くし眠る前はスマホ・ゲーム機などを利用しない、視聴・利用するメディアの質や内容を選ぶ（幼児向け教育番組、幼児向けゲーム、大人との双方向ライブビデオチャットなど）が挙げられる。

また、個々の家庭にあったICT・メディア習慣育成への援助として、保護者のためのセルフチェックリストを活用する、子どもに適したアプリケーションソフト（YouTube Kidsなど）、フィルタリングサービスの利用をするなどの方法がある。

保育にICT・メディアを取り入れ、子どもと保育者のリテラシー育成へ活かす取組も行われている。これからの時代を、主体的にICT・メディアを選択・活用し、価値を創造できる人に育ててほしい。

